

事務事業評価表 平成24年度

政策 計画実現に向けて  
 施策 地方分権・広域行政の推進  
 基本事業 地域資源の活用

事業名 ふれあい施設大学地域連携助成事業

[1039]

|    |       |        |        |          |      |
|----|-------|--------|--------|----------|------|
| 部名 | 企画政策部 | 事業開始年度 | 平成23年度 | 実施計画事業認定 | 非対象  |
| 課名 | 企画課   | 事業終了年度 | 平成23年度 | 会計区分     | 一般会計 |

| 事務事業の目的と成果 |   |
|------------|---|
| 対象         | (誰、何に対して事業を行うのか)<br>自主的な地域づくりを行う団体                                |
| 意図         | (この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)<br>大学と地域による自主的な地域づくりを推進する。             |
| 手段         | (事務事業の内容、やり方、手段)<br>ふるさとふれあい推進事業の補助金として、地域で行うイベントやハート整備に補助金を交付する。 |

| 事業量・コスト指標の推移   |         |    |        |        |         |        |
|----------------|---------|----|--------|--------|---------|--------|
| 区分             |         | 単位 | 21年度実績 | 22年度実績 | 23年度実績  | 24年度当初 |
| 対象指標1          | 大学数     | 校  |        |        | 6       |        |
| 対象指標2          | 市民      | 人  |        |        | 121,705 |        |
| 活動指標1          | 補助金額    | 千円 |        |        | 808     |        |
| 活動指標2          |         |    |        |        |         |        |
| 成果指標1          | 補助対象事業数 | 件  |        |        | 1       |        |
| 成果指標2          |         |    |        |        |         |        |
| 単位コスト指標        |         |    |        |        |         |        |
| 事業費計 (A)       |         | 千円 | 0      | 0      | 808     | 0      |
| 正職員人件費 (B)     |         | 千円 | 0      | 0      | 803     | 0      |
| 総事業費 (A) + (B) |         | 千円 | 0      | 0      | 1,611   | 0      |

| 費用内訳 |                   |
|------|-------------------|
| 23年度 | 負担金 補助及び交付金 808千円 |

## 事業を取り巻く環境変化

|        |  |             |  |
|--------|--|-------------|--|
| 事業開始背景 |  | 事業を取り巻く環境変化 |  |
|--------|--|-------------|--|

## 23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由  
・  
根拠は？

市民協働によるまちづくりに資する事業である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由  
・  
根拠は？

住民自らの地域づくりを推進する事業であり、地域資源を活用している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由  
・  
根拠は？

既存の実習施設を食育等の生涯学習施設として活用するため、見学者・体験者の受け入れに必要な備品整備に補助金を交付し、広く市民が利用できる施設を整備できた。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由  
・  
根拠は？

よ、多くの市民に実際に施設を利用していただくことで、施設整備の意義が生まれる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある

ない

理由  
・  
根拠は？

単年度事業で終了のため。